

# 平成15年度事業報告書

財団法人福岡県国際交流センターは、福岡県の持つ地理的、歴史的特性を活かし、県内の交流団体等と協力して県民主体の国際交流を推進することにより、国際交流における福岡県の拠点性を高めていくとともに、アジア諸国をはじめとして世界各国との交流を深め、もって相互の繁栄と世界の平和に寄与するため、国際的な情報研究、広報啓発、交流促進及び移住国における日系人社会の発展を大きな柱として各種事業を実施した。このほか隣接する福岡県パスポートセンターが行う旅券発給業務に伴い、収入印紙・県領収証紙、写真撮影販売業務に取り組み、県民への利便と自主財源の拡充を図る事業や、学費の捻出が困難なアジア・アフリカからの留学生の生活の安定に寄与するため奨学金を支給する等の事業を行った。さらに平成9年8月に開設された国連人間居住計画（国連ハビタット）福岡事務所の運営に係る支援を行い国際協力を図った。

## 基金及び賛助会員の状況（平成16年3月31日現在）

基 金	(単位：円)
福 岡 県	1,500,000,000
市 町 村	100,000,000
民 間 団 体	270,269,839
計	1,870,269,839

賛 助 会 員 数	
個 人	256名
団 体	19団体

## 事 業 概 要

### 1 情報研究事業

#### (1) 内外図書・資料の収集、整備及び提供

国際関係の書籍・資料等の収集、国際関係情報の入手、整備を行い、「こくさいひろば」において県民や在住外国人等に対し、様々な情報を提供した。

資料収集：内外図書、内外雑誌、内外新聞、ビデオ等視聴覚資料の購入及び在日外国機関・国際交流関係団体等からの資料等の収集

提供方法：「こくさいひろば」図書・資料・ビデオコーナー、国際交流ロビー、相談コーナー、コピーサービス等

#### (2) 図書総合管理システムの整備

図書・資料の登録、貸出等の業務を、コンピューターを利用して総合的に管理し、図書管理業務の省力化、迅速化を進めるとともに、検索機能等による利用者への情報提供サービスを行

った。

貸出登録者数： 1,213 名

図書貸出冊数：12,644 冊

(3) 高度情報収集・提供システムの構築

コンピューターを利用して、各種データベースやインターネットから国際化に関する様々な情報を収集し、広報誌「こくさいひろば」の発行及びFAX情報サービスにより広域的に情報提供を行った。

また、情報化社会の進展に対応できるよう更に機能強化を図るため、センター内の情報の共有化、インターネットを利用した情報の収集・提供に向け、コンピューター及び通信を利用した情報システムを構築し、ホームページを公開している。

(4) 各種相談業務

国際交流に関する一般的な相談に対し相談コーナー、電話等に対応するとともに、関係機関との連携により外国人のための国籍・入国・在留手続、人権等の専門的相談やカナダ、アメリカ、オーストラリア、中国等の留学相談会を実施した。

(5) 「こくさいひろば」情報機器運営

センター来館者への情報提供用として、「こくさいひろば」に設置している情報機器の維持管理及び提供情報の収集・整備を行った。

## 2 広報啓発事業

(1) 和文ニュースの発行

県民の国際化に関する理解と関心を深めるために、国際交流に関する県内有識者の論文やインタビューをはじめ、福岡県内の相談窓口の紹介や当センターが実施した事業、県内国際交流団体の紹介記事、国際交流イベント等の情報を掲載した和文ニュースを4回、各4,500部発行し、賛助会員、市町村、交流団体その他関係機関に配布した。

(2) 外国語ニュースの発行

外国人の県や県民に対する理解の促進と日常生活の利便性、快適性の向上を図るために、外国語でニュースを4回（英語版各4,000部、中国語版各2,500部、ハングル版各2,000部）発行し、市町村、外国政府機関、大学、文化施設、観光施設等に配布した。

(3) パンフレットの作成

県内在住の外国人に対して、生活していく上で必要かつ便利な情報を提供するために、英語版県内地図の前面改訂を行った。

(4) FM外国語放送

在住外国人に対する生活、イベント情報の提供及び県民レベルの国際交流の推進を図ることを目的として、英語（2回）中国語及びハングルの3か国語で週4回放送した。

### 3 国際交流促進事業

#### (1) 国際理解教室の開催

国際化、国際交流に関する県民の理解を促進するために、県内の関係団体等との共催で、異文化を知るための伝統文化公演会等を開催した。

筑後地区：モンゴル歌謡及び中国舞踏公演（大牟田国際交流フェア）

10月26日 大牟田市

#### (2) ボランティア活動の推進

ホームステイ・ホームビジット、語学、文化、事業協力の各ボランティアをセンター事業（オープン講座）等で活用し、個人レベルでの国際化、相互理解の推進を図った。

##### 【オープン講座の実施】

「にほんご交流教室」	実施回数	35回	参加者	1,898人
茶道教室	実施回数	2回	参加者	33人
書道教室	実施回数	5回	参加者	54人
おりがみ教室	実施回数	10回	参加者	108人
三味線教室	実施回数	1回	参加者	14人

なお、  
、  
については、NGO 団体等と共催し実施した。

#### (3) 国際交流関係団体連絡会等の開催

県内の様々な分野にわたる国際交流関係団体等の相互の連携を図り、情報交換と相互支援体制づくりを促進した。

#### (4) 国際交流事業への助成

県民レベルでの交流の促進及び民間交流団体の育成・支援を目的に、県内の交流団体が実施したプロジェクト7件に対し、事業費の助成を行った。

#### (5) 講演会等の開催

県民の国際理解の促進と、地域の国際化を図るため次の事業を実施した。

ア 「若者文化がつなく日本とアジア～ いま、アジア若者文化が熱い！！」

「日韓国民交流年記念講演会」～ふかめよう！日韓のパートナーシップ～

開催日：平成16年3月28日

開催場所：アクロス福岡 国際会議場（参加者 281名）

内 容：<第1部 講演>

(ア) アジア若者文化に関する調査報告

講師：みんしる（ディスクジョッキー）

(イ) 特別講演「ポップスがつなく日本とアジア」

講師：関谷 元子（音楽評論家）

<第2部 音楽公演「奇跡の歌声」>

出演：イム・ヒョンジュ（歌手・韓国）

(6) 留学生福岡体験事業

県内に在住する留学生に対して、本県の文化・歴史等を紹介するとともに地域住民との交流の場を設けることにより、本県への理解を深めるための機会を提供した。

また、福岡県留学生も共催として事業に参加するとともに当センターの事業協力ボランティアが通訳やガイドとして活躍した。

(夏季)・開催期日：6月28日～29日

開催場所：朝倉郡小石原村

参加人数：23名

(秋季)・開催期日：11月16日

開催場所：朝倉郡小石原村

参加人数：49名

(7) 福岡・韓国学生教育交流

日韓の相互理解を深めるとともに友好親善を図るため、両国の教員を目指す大学生たちを相互に派遣し、教育現場の視察や意見交換会、文化施設・史跡等の見学等を行った。

また、14年度に引き続き、福岡県の派遣団を福岡教育大学の学生で構成し、福岡教育大学と韓国教員大学校との大学間交流を実現した。

ア 韓国教員大学校学生福岡県研修団受入

受入期間：9月1日～6日

受入人数：20名

イ 福岡県学生韓国教育交流団派遣

派遣期間：9月18日～24日

派遣人数：19名

(8) 外国人人材リスト作成

本県の国際化を進めていくために作成した、講演・イベント等に活用できる県内の在住外国人人材リストについて、リストの更新及び補充を行った。

(9) 国際交流基盤整備事業

外国政府(関係)機関、外国企業等の誘致条件の整備を図り、県民主体の国際交流を推進する目的で、外国人の子弟を受け入れる「福岡インターナショナルスクール」への運営費助成を行った。

(10) 青少年国際理解教室開催事業

県内在住の留学生等外国人と青年海外協力隊等海外活動経験者を小・中・高等学校をはじめ公民館、アンビシャス広場にゲストティーチャーとして派遣し、国際理解教育授業を行った。

派遣実績：「教室から世界をのぞこう」プログラム

小学校 180回、中学校 31回、高等学校 15回、その他 8回 計 234回

国際人アンビシャス塾

アンビシャス広場等 180回

合計 414回

(11) 姉妹友好交流活性化事業

ア 福岡県・江蘇省友好交流

福岡県と友好提携を結んでいる中国江蘇省との民間レベルでの友好交流を促進させるため、民間交流視察団の派遣を行ったが、SARS の影響による事業の遅れ等による江蘇省側の業務多忙により受入については中止となった。

・福岡県経済交流団（IT 関連企業）派遣

派遣期間：10月21日～25日

派遣人数：13名

イ 福岡県・江蘇省スポーツ交流

福岡県と友好提携を結んでいる中国江蘇省との間で、両地域のスポーツ交流事業として福岡県の高校生選抜バレーボール選手団を派遣する予定であったが、SARS の影響により次年度に延期した。

(12) JICA 青年招へい事業

JICA が行う途上国の将来を担う優秀な青年の受入を行い、福岡県の各分野の技術やノウハウを提供することにより、当該国とのネットワークの構築を図った。

(13) アジア若者文化育成事業

ア アジアの若者文化情報を発信するため、多言語放送局である Love FM に委託し、「Asian New standard」の番組を16年1月からスタートさせた。

イ 九州芸術工科大学と共催で韓国のゴスペル歌手を招き、クリスマスコンサートを実施した。

4 移住事業

(1) 福岡県移住者子弟留学生の受入

移住国における日系人社会の発展及び福岡県と移住国の親善交流に資する、人材を育成するため、福岡県出身移住者の子弟を次のとおり、県内の大学等に1年間留学させた。

県人会名	人員	留学学校名	備考
ブラジル福岡県人会	4名	九州大学 大学院比較社会文化学府	国庫補助対象者
		九州産業大学 経営学部	〃
		九州大学 医学部	〃
		九州造形短期大学 美術科	
トメアス 〃	1名	九州大学 農学部	
アルゼンチン 〃	1名	九州大学 医学部	
ポリビア 〃	1名	福岡女子大学 人間環境部	
ペルー 〃	1名	福岡教育大学 教育学部	
南加 〃	1名	早稲田大学大学院 情報生産システム研究科	
バンクーバー 〃	1名	九州大学 医学部	
合計	10名		

(2) 移住高齢者の援護

福岡県出身の移住者及びその子孫で高齢の者に対し、移住先国での長年にわたる労苦をねぎらうことにより、福岡県出身移住関係者の発展及び友好親善を図った。

・在外県人高齢者の表彰

長寿を迎えた移住高齢者に祝状、記念品を贈呈した。

平成15年度在外県人高齢者の表彰人数

(単位：人)

県人会名	80歳	88歳	95歳	99歳	100歳以上	合計
ブラジル	30	14	3	1	3	51
パラグアイ	1					1
ボリビア	1					1
コロンビア		1	1			2
アルゼンチン	2	1				3
メキシコ	1				1	2
ペルー	2					2
レスブリッジ		1				1
トロント	5	1				6
ハワイ	4					4
ハワイ島	9	3	1			13
ハワイ コナ	6		2			8
ハワイ カウアイ	1			1		2
南加	6	5	1		1	13
湾東	1	3			1	5
サンフランシスコ	1	2				3
シアトル	2	1	1			4
合計	72	32	9	2	6	121

(3) 在外県人会等の育成

福岡県移住者の発展を図り、福岡県との相互理解や交流を深めていくために、海外福岡県人会等に対して支援を行った。

ア 情報誌の提供

福岡県の現状及び海外の移住地等の紹介をするため機関紙「筑紫」を作成し、海外移住者及び国内関係者に配布した。また、「グラフふくおか」を海外移住者に、日本海外協会発行の「海外新聞」を国内関係者にそれぞれ配布した。

イ 県人会等活動費助成

福岡県移住者の発展を図る目的で、移住先国での在外福岡県人会等の活動に対して助成を行った。

県人会名	会 員 数	助 成 額
ブラジル	1,214世帯	800千円
＃ ベレン	63	150
＃ マナウス	24	100
＃ トメアス	11	50
ボリビア	40	100
コロンビア	67	150
アルゼンチン	56	150
メキシコ	75	150
パラグアイ	46	100
ペルー	145	200
カナダ バンクーバー	50	100
＃ トロント	80	200
カナダ レスブリッジ	37	100
ハワイ	152	200
＃ ハワイ島	97	150
＃ コナ	97	150
＃ カウアイ	113	150
アメリカ 南加	280	350
＃ サンフランシスコ	154	200
＃ 湾東	47	100
＃ シアトル	163	200
国内の移住関係団体		370
合 計	3,011世帯	4,220千円

(4) 福岡県移住者子弟短期受入

在外福岡県人会の将来を担う移住者の子弟を故郷福岡に受け入れ、日本の歴史・文化・産業等を自分で体験できる機会を設けることにより、在外県人会の後継者として移住先国と福岡県との国際交流の核となる若い世代の人材を育成する目的で実施した。

受入期間：8月19日～26日

受入人数：ブラジル福岡県人会 2名

ペルー福岡クラブ 2名

トロント福岡県人会 1名

計 5名

## (5) 移住地交流

各在外県人会等で開催する周年事業に訪問団を派遣し、相互理解及び交流促進の強化を図った。

## 5 収益事業

旅券発給業務が隣接の福岡県パスポートセンターで行われていることから、収入印紙・県領収証紙、写真撮影販売の業務を当センターが行い、利用者への利便を図るとともに、自主財源の確保によるセンター運営基盤の拡充を図った。

また、10月1日から自動販売機を導入し、販売の円滑化、効率化を図った。

## 6 留学生支援事業

### (1) 福岡県国際交流センター留学生奨学金の支給

学費の捻出が困難な県内の私費留学生に対して経済的支援を行い、留学生の生活の安定を図った。

支給対象：福岡都市圏外の私費留学生 25名

支給額：月額2万円(1年間支給)

### (2) アジア・アフリカ留学生奨学金の支給

故藤嶋良雄氏の遺族からの寄付金を基に、アジア・アフリカの出身で学費の捻出が困難な留学生の生活の安定に寄与するため、奨学金を支給した。

支給対象：アジア・アフリカからの留学生 5名

支給額：月額2万円(1年間支給)

### (3) 留学生住宅保証制度

県内の当センターが対象とする地域の大学に在学する留学生が賃貸住宅に入居する際、当センターが保証人となり、留学生の住居の確保を促進し生活の安定を図った。

保証実績：103名

### (4) 福岡アジア留学生里親奨学金の支給

民間の支援者からの寄付金を原資としたアジア地域出身の留学生向けの奨学金であり、経済的支援にとどまらず、支援者と留学生の相互理解と交流を深めることを目的として、奨学金を支給した。

支給対象：アジア地域出身の留学生 45名

支給額：月額2万円(1年間支給)

## 7 国連ハビタット福岡事務所運営事業

居住を中心に人々の生活全般の改善を図ることを目的とした国連の機関である国連人間居住計画(国連ハビタット)のアジア太平洋地域における地域事務所として開設された国連ハビタット福岡事務所の運営にかかる支援を行い、国際協力を図った。